

昭和三十六年七月十日

日米文化交流の実態

— そのありまし —

文部省調査局国際文化課

はじめに

日米両国間の文化交流は、戦後とくに活潑となり、学者・芸術家・催しもの等の相互交流は逐年さかんに行われるに至り、両国の友好、親善の緊密化に大きな役割を果たしてきているが、その実態については必ずしも詳細に把握されていない実情にある。

次に掲げるものは、平和条約調印年度（昭和二十六年）から今日に至るまでの十一年間における主要な文化交流事業について、人物交流と文化交流に二大別してその大要をのべたものである。

（一）人物交流

1 米国側の負担によるもの

（1）米國國務省による國民指導者の招へい

過去八年間に約三七八名が招へいを受け、渡米している。

（2）フルブライト計画による大学院学生・教員・教授の交換（RCA計画を含む。）

イ、過去十年間に渡米したもの

二、三〇一名

ロ、過去十年間に来日したもの

四五九名

(注)

a、フルブライト計画

「一九四四年の余剰財産法」(合衆国オ七八議令公法才四五七号)に基づいて、アメリカ合衆国政府が諸外国政府に売却した余剰財産の代金の一部をアメリカ合衆国政府と当該国政府との間の教育交換に使用し得るよう修正した「合衆国公法才五八四号」(一九四六年一月才七九議令において可決)を、同修正案の提出者フルブライトの名を冠して通称フルブライト法という。この法律により当該国に派遣される米人に対しては、渡航費および生活費が金額支給されるが、当該国人で合衆国に渡航するものに対しては、渡航費のみが支給される。従つてその生活費は合衆国の他の機関(國務省・大学・研究所等)から支給を受ける。

b、ROA計画は一九一九年設立の米国における電子工業の有力メーカーの一つで、その企業より得た利益金の一部を社会の福祉に提供したいとのサルノフ会長の発意により従来米国の学生に対して奨学金を提供していたが、昨年以來、外国ではじめて日本の学生にも奨学金を提供するようになったものである。(奨学金を受けたもの三十五年度八二名「一四大学」、三十六年度九〇名「一五大学」、計一七二名)

(3) 米国科学財団資金による科学者(トップ・レベル)の交換

イ、渡米したものはアジア財団計画の中に含まれる

ロ、来日したものは過去五年間約五名

(注)

米国科学財団は一九五〇年才八十一議会の公法才五〇七号によつて設立された連邦政府の独立機関である。主たる目的は主として科学の基礎研究、職員養成、教育への援助および科学情報の交流普及である。会長および二十四人の理事は米国大統領に任命される。事業の主たるものは科学教育振興および基礎研究に対する国策の立案、米国防省関係の特定国防研究活動の援助、科学の分野での奨学金提供、科学情報の交換促進である。日本における活動は一九六〇年秋以來である。

(4) 州立ハワイ大学の招へい

セミナー(昭和三十五年開催)参加者 三名

(5) アジア財団資金による学生・研究員・教授の交換

イ、過去六年間に渡米したもの

三七七名

ロ、過去六年間に来日したもの

五一名

(注)

アジア財団はサンフランシスコ市に本部を置きアジア地域十四国に支部を置く。政治的宗教的色彩のない非営利的な米国の民間団体であり、アジア各国において平和、独立、個人の自由の確立および社会の進歩のために努力している個人や団体に米国民間の支援を差しのべることを目的とするカリフォルニア州法による財団法人で日本支部は昭和三十年七月開設された。

- (6) アメリカン・フィールド・サーグイス (A.F.S.) 計画による高校生の交換
 イ、過去八年間に渡米したもの 四七八名
 ロ、過去五年間に来日したもの 一四一名

(注)

A.F.S.計画は一九一五年にアメリカの民間有志者により才一次欧州大戦において戦傷病将兵救済事業を行なう目的で設立された。一九四六年に組織を改め高校生の国際奨学金制度を設け、現在約五〇国から米國に高校生を招いている。その人数は年間約二、〇〇〇人である。

- (7) ニューヨーク・ヘラルド・トリビュンによる高校生の招へし
 過去十年間に渡米したもの 一〇名

(注) 米國の有力紙であるN.H.Tは昭和二十七年以来世界三十八國の高校生を招き三か年間米人学庭に入り同紙が主催する討論会に参加する。旅費はパンアメリカン負担。

以上合計	四、二〇三名
渡米	三、五四七名
来日	六五六名

2 日本側の負担によるもの

- (1) 文部省による国費留学生の招致
 過去七年間に研究留学生一二名を受け入れている。
- (2) 文部省による在外研究員の派遣
 過去十年間に六三七名を派遣している。うち三二二名については、その滞在費を米國政府が負担している。
- (3) 文部省による社会教育指導者・関係者の派遣
 昭和三十五年度に一二〇名を派遣している。うち一二二名はボーイ・スカウト大会の参加者である。
- (4) 文部省による校長等の海外教育事情視察のための派遣過去三年間に一三一名を派遣している。
- (5) 総理府による青少年の海外派遣
 過去三年間に中央青少年問題協議会から九四名が派遣されている。
- (6) 大学・短期大学の米人教師の招へし
 國・公・私立大学で、一五四名を招へいしている。
 イ、国立・公立大学では、過去八年間に四一名を招へいしている。うち三七名を国立大学で、四名を公立大学で招へいしている。
 ロ、私立大学では、過去九年間に一一三名を招へいしている。

以上合計	一、一四八名
渡米	九八二名
来日	一六六名

ロ 文化交流

1 米國側の負担によるもの

(1) 催しもの

イ、日本古美術展覧会の開催

(イ) ロスアンゼルス中国陶器展 (昭和二十七年 三月) 四月)

(ロ) クリーブランド極東風景画展 (昭和二十九年十一月) 十二月)

(ハ) 第一回ホノルル展 (昭和三十年 二月) 三月)

(ニ) 第二回ホノルル展 (昭和三十二年 二月) 三月)

(ホ) はにわ展 (昭和三十五年 一月) 十月)

ワシントン・ニューヨーク・シカゴ・シヤトル・サンフランシスコで開催

ロ、国際児童画展参加 (昭和三十二年 二月)

十五点出品、ミシガン大学主催

ハ、ワシントン国際写真展示会参加 (昭和三十二年五月二十二日) 三十一日)

ニ、米國芸術ポスター展参加 (昭和三十二年五月二十七日) 六月三十日)

八点出品、デラウエア州芸術祭事務局主催、ドーヴァーで開催

ホ、フィラデルフィア市商業博覧会における日本展 (昭和三十二年十一月一日

十二月三十一日)

ヘ、才三回サンフランシスコ国際映画祭参加 (昭和三十四年十一月十一日) 二十四日)

「隠し砦の三悪人」参加、サンフランシスコ市芸術委員会主催

(2) スポーツ

イ、アマチュア・レスリング選手団の招へい (昭和三十二年二月二十日から四週間)

役員選手十一名をロスアンゼルスその他へ派遣

ロ、日米高校親善野球大会参加 (昭和三十四年八月二十四日) 九月十七日)

副長以下二二名参加、南カルフォルニア・ベテラン・クラブ主催、ロスアンゼルス・サンフランシスコ・ホノルルで開催

ハ、その他野球、テニス、マラソン、スキー等の各種競技大会に参加している。

その他

(3)

ROA計画による理科教育設備購入費に対する補助

イ、昭和三十五年度 一、九八〇、〇〇〇円 (小中高七校・理科センター二が補助を受けている)

ロ、昭和三十六年度 二、〇〇〇、〇〇〇円 (中高四校・理科センター四が補助を受けている)

2 日本側の負担によるもの

(1) 催しもの

イ、日本古美術展の開催

(イ) サンフランシスコ展 (昭和二十六年九月) 十月)

(四) アメリカ巡回展 (昭和二十八年一月)十二月)

ワシントン・ニューヨーク・シヤトル・シカゴ・ボストンで開催

ロ、カルフォルニア大学合唱団招へい (昭和三十三年六月八日)二十一日)

読売新聞社主催、福島・東京・静岡・名古屋・京都・大阪・神戸・下関で開催

ハ、才二回ニューヨーク日本映画見本市 (昭和三十三年一月二十二日)二十四日)

日本映画製作者連盟主催、ニューヨーク市で開催

ニ、ニューヨーク・シテイ・パレィ団招へい (昭和三十三年三月十七日)四月六日)

ラジオ・サーヴィス・センター主催、東京・大阪で開催

ホ、ニューヨーク・リトル・オーケストラ招へい (昭和三十四年四月十四日)十七日)

国際文化交流協会主催、東京・名古屋・大阪・下関・八幡・博多・長崎で開催

ヘ、宮内庁雅楽の公演 (昭和三十四年五月二十五日)七月三日)

国際文化振興会主催、楽員二〇名

ト、宝塚歌劇団巡回公演 (昭和三十四年八月十日)十一月十六日)

一行四五名、三〇都市で公演

(2) スポーツ

イ、米陸上選手団招へい (昭和三十三年八月)九月)

一七名来日、日本学生陸上競技連合主催、東京で開催

ロ、少年野球団招へい (昭和三十四年八月二十七日)二十九日)

一七名来日、産経新聞社主催、東京で開催

ハ、米職業野球団招へい (昭和三十三年十月二十四日)十一月十六日)

セントルイス・カージナルス野球団、読売新聞社主催、東京で開催

ニ、その他各種競技選手および各種競技団等が来日している。

(3) その他

イ、東京都・ニューヨーク市放送音楽会の交換

ニューヨーク市側 (昭和三十三年七月二十九日放送)

東京都側 (昭和三十三年八月三十日放送)

東京都は、NHK交響楽団演奏をテープ録音し、ニューヨーク市に送付し、ニューヨーク市はこ

れを全米放送した。

ロ、シヤトル市への茶室寄贈

東京都がシヤトル市へ茶室を寄贈し、シヤトル市はこれを市内に設置した。

③ 日米共同負担によるもの

(1) 生産本部および米国側による学者・経営者等の人物交流

イ、過去六年間に渡米したもの 三、六〇〇名

ロ、過去六年間に来日したもの 九九名

(2) 歌舞伎の公演 (昭和三十五年五月二十七日)七月十九日)

国際文化振興会で往復旅費・大道具製作費・運搬費負担(二、七〇〇万円・外務省からの補助金によるもの)、アメリカ滞在費・国内旅費はニューヨーク・シテイ・パレエ総支配人リンカーン・カステイーン氏負担

一行六四名、ニューヨーク・ロスアンゼルス・サンフランシスコで公演

日 米		日米共同負担によるもの	
人 物 交 流		文 化 交 流	人 物 交 流
合	計	歌 舞 伎 の 公 演	学 者 ・ 経 営 者 等 の 交 流
		古 典 芸 術 の 紹 介	産 業 ・ 経 済 ・ 文 化 等 事 情 の 視 察
来 日	渡 米		来 日
			9
			174
			14
			370
			19
			538
			19
			703
			18
			885
		○	20
			930
921	8,129		99
			※3,600
		米 国 際 文 化 振 興 会 米 国 (民 間) 側	米 生 産 性 本 部 米 国 側 ※三六〇〇名の ほかに一三二 名の研修生が 渡米している

備 考

- 一、右に掲げるものの外、民間における芸術家・専門家・催しもの等の相互交流は、相当多く行われている。
- 二、文部省関係にかかる年間渡米者数は、約八〇〇名、来日者数は約九〇名である。
- 三、右表、年度別欄中の○印は、実施年度を表わす。